

給食は学校教育の一環

2月定例議会で岸本市議
「天津市全市に中学校給
食を」 実施を迫る！



こんにちは

岸本のり子です

発行 日本共産党

連絡先 天津湖西地区委員会
日本共産党天津市会議員

岸本のり子

天津市和邇春日2丁目

ケイタイ 08031163877

66・3 / 22

日本共産党

教育長の答弁は

「手づくり弁当に教育的な意義」

中学生ともなると個人差が大きく、個々に応じた昼食の方が好ましい」

教育長はいま、子どもたちのおかれた状況を「存知なのでしょいか



施 全国公立中学校の8割が給食実

2007年文部科学省調査では

全国完全給食 80.5%

おかずと牛乳だけの補食給食を合わせると

82%

食育基本法とこれに基づき、今年改正された学校給食法では給食を「学校教育の一環」として明確に位置づけています。

全国平均を上回る

天津市の中学生、朝食の孤食・個食率

朝食・夕食は孤食、昼はコンビニ弁当やパンで、しかも現在子どもたちをとりまく貧困と格差の広がりにはさらに深刻です。

文部科学省の調査では全国の中学校の

33.5%の生徒の朝食が 孤食 個食の状態

一方天津市では

A 中学校・・・ 44.9%

B 中学校 鄞市部・・・63% 夕食の孤食の割合も(23.3%)

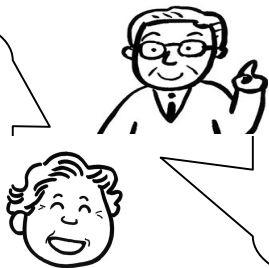
天津市の母子世帯は、この6年間で1.47倍、父子家庭は2.12倍に。就学奨励費は需給条件が悪くなっているにもかかわらずこの10年で需給率は10.3%から18.85%と増加。家庭環境格差は広がり続けています。

志賀中学校の給食は残し全市にひろげるべきではないでしょうか。

旧志賀町では地域の食材で商店 農業者を支援、職場体験として生産者と交流、食に行政が

広がる貧困と格差、ますます学校給食の果たす役割は重要

センター方式での給食になって味が変わり食べられなくなったという子がいる。彦根は合併によって自校方式になった。行政はもっと考えて欲しい。



食育をキャンペーンに終わらせてはいけない。食育推進を進めて本当に結果が出るのは10年後。医療費の高騰を考えても予防医療が大事

中学生でお弁当持参だが、親が朝起きることができなくて、白いご飯だけの子もいると聞いて胸が痛む。



給食は誰でも平等に受けられる権利。家庭環境に格差がある中で、どの子にも平等な食の豊かさを体験させることは政治の責任です。

大津市食育推進計画策定懇話会で、市民代表有識者代表の方々から出されたご意見

責任を持ち自校方式の小・中学校の給食を実施してきました。食育基本法や学校給食法ではこのことが求められているのです。

「暮らしの足」にバスは欠かせない！

大津市内どこに住んでいても安心して暮らせるように

2月定例議会
岸本市議必死の訴え！

市長！ 湖西線JRの階段は4階建ての建物に匹敵するのです！

市役所の地下から3階まで歩いてあがつてみて下さい。

JR以外交通手段のない志賀北部の高齢の方が、やっと駅にたどりついても50段以上の階段を上がる苦しさをわかしてください！

2月定例議会で岸本市議必死に訴える！！

国の「地域公共交通の活性化および再生に

関する法律」に基づき大津市は「公共交通総合連携計画」を策定。おもに

1 鉄道駅を中心とした公共交通ネットワークの維持 活性化

2 高齢社会に対応した、日常生活 買い物や通院を支えるバスなどの地域公共交通ネットワークの維持 活性化を行なう

となっております。

岸本市議は法の趣旨に沿い、とりわけ旧志賀町北部の市民の足の確保を強く求めました。

大津市公共交通総合連携計画には
旧志賀町域は含まれない！

この計画は

「既存バスを維持活性化するもの」

「もともとバスが走っていない地域は該当しない」とい

「福祉施策ではない」

「JR湖西線蓬萊駅以北の駅は半径1km内に大半の集落があり徒歩圏内」

「新たな地域へのコミュニティバスを走らすには大津市の財政事情から体力がない」

という建設部長の答弁なのです。

こんなバス走らせたいな～



藤岡さき子

昨年、私たちが取り組んだ「JR駅にエレベーター」の署名は北部の多くのみなさんが願いを込めて署名してくださいました。

エレベーターの実現に向かってさらに頑張るとともに、志賀北部の集落は徒歩圏内に住んでいるからバスはいらないこんなひどい話はそのままにしておけません。

北部の住民にとって暮らしの足の確保は切実な要望です。

みなさん！

駅には「エレベーター」を、「市内に巡回バスを」一緒に運動を広げていきましょう。



谷 なおみ

既存のバスを維持活性化させることは大切なことです。

しかし、もともと路線バスが通っていない地域は該当しないというのがひどい話です。

旧志賀町では、比良とびあは町民のための健康保養施設でした。

町民のみなさんは比良とびあへのバスを巡回バスがわりに多く利用されていました。

合併と同時に健康保養施設は民間に委託して観光施設に様変わり、バスはなくなりました。

木戸市民センターに老人福祉センターができて、広く市民が利用できるには、巡回バスは欠かすことはできません。

岸本市議の必死の訴えにも究極には「財政事情」といいますがお金の使い道が問題では？

日本共産党の演説会におこしください。4/4(土)午後2時開会
大津市民会館大ホールです。弁士は吉井英勝衆院議員、川内たかしさんです